

日本昆虫学会第70回大会 公開シンポジウム

「昆虫から眺めた温暖化と生物多様性」

2010年9月19日(日) 午後1時～



■会場：

東京第一ホテル鶴岡
「鳳凰の間」

■概要：

地球温暖化やヒートアイランド現象などの気候温暖化は、すでに現実のものとなり、さらに将来においてもますます加速していくものと予測されている。このような気候温暖化は、さまざまな機構を通して生物多様性を低下させることにつながる可能性が強いとも言われている。そして、生物多様性の低下は、生態系が提供してくれるさまざまなサービスを私たちが享受できなくなることを意味している。それは人類にとってきわめて深刻な問題である。本シンポジウムは、変温動物であるゆえに気候変動のもっとも鋭敏なセンサーである昆虫類において、気候温暖化に対する反応の実態と、そのことの生物多様性に対する影響を、さまざまな昆虫類を用いた研究を通して明らかにすることを目的としている。

■問い合わせ：

日本昆虫学会第70回大会事務局

〒997-8555

山形県鶴岡市若葉町1-23

山形大学農学部動物生態学研究室

TEL: 0235-28-2863

■主催：日本昆虫学会

■後援：山形県鶴岡市

入場無料！

■プログラム：

- 13:00～13:10 趣旨説明：藤崎憲治
- 13:10～13:35 桐谷圭治(伊東市)
「外来種の北進が在来種を絶滅に追いやる：ミナミアオカメムシとアオクサカメムシ」
- 13:35～14:00 湯川淳一(九大)
「昆虫の出現期と植物の開葉期のずれが生物多様性に及ぼす影響」
- 14:00～14:25 石井実(大阪府大院・生環科)
「温暖化と南方系チョウ類の分布拡大」
- 14:25～14:40 休憩
- 14:40～15:05 沼田英治(京大院・理)
「都会のセミの多様性が失われた理由」
- 15:05～15:30 藤崎憲治(京大院・農)
「温暖化のカスケード効果：シカの増加が昆虫の多様性に及ぼす影響」
- 15:30～16:00 総合討論：沼田英治

